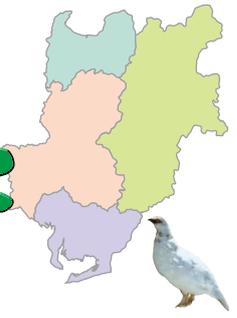




国民の森林・国有林

広報

中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575 長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>



赤沢（小川入国有林）で開催された現地検討会

赤沢ヒノキ林施業試験地等における 現地検討会を開催

(P 3 に関連記事)

主 な 項 目

- 「木曾式伐木運材図会」を展示 P2
- 各地からのたより P3~5
- シリーズ森林官からの便り P5
- 風景紀行 P6

長野県林業・木材産業団体合同セミナーで鈴木局長が講演

「総務課・販売課」十月二十三日（火）長野県林業・木材産業団体合同セミナーが長野市で開催され、セミナー主催者の依頼に基づき、「森林・林業・木材産業を取り巻く情勢と今後に取り組むべき諸課題について」と題して、鈴木局長が講演を行いました。

このセミナーは、長野県内の林業・木材産業関連団体関係者が国内外の林業・木材産業の情勢について学習する場として、関係者のスキルアップを図ることを目的に開催され、約一〇〇名が聴講しました。



講演する鈴木局長



聴講する林業関係者

講演内容は、戦後日本の木材需給を振り返ることから始まり、木材使用の現状、合板、集成材、床板を巡る動きや公共建築物等における木材利用の具体例を紹介しながら、我が国の木材需給の現状と今後の課題、それを踏まえた方策までを分かりやすく解説しました。

聴講者から、「大変参考になった。ぜひ今回の講演内容を多くの人に広めてほしい。」といった声があがったこともあり、急遽、長野県林業普及協会等林業関係団体が合同で編集・発行する月刊誌「長野の林業」に講演要旨を掲載してはとの要請に応えるなど、大反響を巻き起こした講演となりました。

木曽林業の歴史について「木曽式伐木運材図会」を展示

「企画調整室・総務課」十月二十三日（火）からの一週間、開かれた国有林の活動の一環として、当局が所蔵する「木曽式伐木運材図会」をマスコミに公開しました。

「木曽式伐木運材図会」は中部森林管理局が所蔵する江戸時代後期の伐木運材の様子が描かれた絵巻物で、木曽地方林業の歴史を語る上で貴重な資料となっています。

図会は上下二巻となっており、一八四〇年代頃の、木曽地域の奥深い山から木材を伐り出し運び出す様子などが克明に画かれています。



図会の説明に当たる職員

期間中、三社の記者が訪れ、図会に描かれている作業の説明、図会に関する研究成果を説明する職員の話メモしてい



関連資料も展示し説明



「木曽式伐木運材図会」はガラスケースに入れて展示



第 7 回：下刈作業（東濃署）

「NCT」事業
全十三回の事業が終了

き、新聞にも掲載されました。
今回はマスコミを対象に公開したところですが、今後は林業に関心を持ってもらうためにも、大勢の方々に見ていただける機会を検討していきたいと考えています。

「名古屋事務所」 十二月一日（土） 第



第 9 回：遊歩道整備（北信署）

十三回名古屋シティ・フォレスト事業を愛知森林管理事務所管内の瀬戸国有林において実施しました。

今年度の同事業は、今回で終了となりました。今年度は各署等において十三回計画しましたが、一回雨天中止となり十一回の実施となりました。延べ百五十三名の隊員の方々の参加があり、下刈・除伐・歩道修理等の森林整備に汗を流していただきました。これとは別に、団体加入している N T T 西日本―東海は三十一名で、瀬戸国有林で集めたドングリを育てて森林に返す植樹活動なども実施しました。

参加された隊員の方々からは、「抽選

になかなか当たらないので参加人数を増やしてほしい」「実施回数を増やしてほしい」「来年度も是非参加したい」など、心強い声をいただきました。
今回の事業の最後に、名古屋事務所長から、「今年度も皆さんの協力で無事事業が実施できました」とお礼の挨拶をもって終了となりました。

各地からのたより

「赤沢ヒノキ林施業試験地等における現地検討会」を開催

「木曾署」十一月十三日（火）に木曾森林管理署と森林総合研究所は小川入国有林一〇〇林班外（赤沢自然休養林内）で

「赤沢ヒノキ林施業試験地等における現地検討会」（木曾森林管理署・森林総合研究所との技術交流会）を開催し、森林総合研究所、多摩森林科学園、国際農林水産業研究センター、局指導普及課、木曾森林管理署（南木曾支署含む）、木曾森林環境保全ふれあいセンターの総勢七十五名が参加しました。

今回の検討会には、昭和五十八年の試験地設定当初から地元上松町の町議会等の関心が高い、上松町議会の議員の皆さんと町の関係者にも参加していただきました。



木曾署での研究発表の様子

この試験地は、木曾ヒノキ天然林の永续のための施業試験を目的として設定され、昭和五十八年度から六十年までの三カ年でブロック毎に伐採率を変えた択伐を行い、その後は、地かき、下層ヒバの除去等更新の補助作業を実施してきています。当署、森林技術センター、複数の大学や研究機関でヒノキ稚幼樹の発生・生育のための調査を行い、今後の木曾ヒノキの天然林施業を科学的に実証しようとしています。

この検討会は、学・官の技術交流を通じて相互の知識・技能の向上を図るとともに、木曾ヒノキの天然更新方法等につ



林木遺伝資源保存林 (奥千本)



林木遺伝資源保存林 (千本立)

いて共通認識を醸成するため、昨年度の王滝村の三浦国有林「三浦実験林」における天然更新等現地検討会」に続き二回目の開催となりました。

高嶋署長から本検討会の趣旨説明後、試験地で業務第一課長から試験地の概要の説明を行い、森林総合研究所 森林植生領域 植生管理研究室長の杉田久志さんから今日までの試験調査の内容や結果についての説明がされました。

参加者からの「天然更新は全く人が手を入れないことなのか」「ヒバの除去をしなければ木曾ヒノキの天然更新がされずにヒバ林に変わってしまうのか」「小さな稚樹が多く発生しているが今後の成長は期待できるのか」等多くの質問に対

し、森林総合研究所・署からの具体的な科学的な説明を行う形式で論議が進められました。一〇〇林班での現地検討終了後、上松町議会の村上議長から、「赤

沢自然休養林は木曾ヒノキを代表とする木曾五木が生育し、日本、世界を代表する自然遺産であることから、地元上松町としても取り扱いについては、慎重に論議を重ねてきている。今回は、署の担当者の方だけではなく、中々機会を得られない森林総合研究所の博士から科学的な説明をいただき感謝したい」との言葉をいただきました。

午後には職員でも中々見る機会が少ない、赤沢自然休養林内の植物群落保護林、木材遺伝資源保存林(千本立・奥千

本)に向かい、木曾ヒノキを主体とする林分について科学的な議論が交わされました。現地検討の後、当署の多目的ホールにて

①「赤沢ヒノキ天然林の森林動態」

②「赤沢ヒノキ天然更新はうまくいつているのか?」

③「養分貯蔵させないササ抑制方法―刈払時期を変えた処理効果」

④「御岳山土石流跡地におけるハンノキ属樹種の窒素固定能の動態調査」

⑤「木曾川上流域における渓流水の科学的特徴」

の五課題の研究紹介が行われました。いずれの課題も当署管内で行われている身近な研究で、職員と各研究者間で疑問な点や現在解明できていること、今後解明したいこと等に意見が交わされました。

また、各研究者の資料作成能力の高さ、プレゼンテーション能力の高さに驚き、発表の手法を学ぶ機会ともなりました。今後も局で開催する森林技術交流会に積極的に参加したいと言う森林官もあり、有意義な現地検討会・技術交流会となりました。



森と木とのふれあいフェア

2012

〔岐阜署〕十月二十七日(土)～二十八日(日)の両日に岐阜県庁前芝生広場において、「森を学ぼう、森で遊ぼう、森のめぐみを楽しもう」をキャッチフレーズに岐阜県主催の「森と木とのふれあいフェア2012」が開催されました。

このイベントには、岐阜県内外で活動する企業・団体が集まり、高性能林業機械の展示実演を初め、木製品やキノコなどの林産物の販売、体験型など趣向を凝らしたブースが数多く並び、二日目が雨天にもかかわらず県内外から約五万六千人が来場されました。



岐阜署のブース (ネームプレート制作)



木工クラフト体験コーナーも大人気

岐阜森林管理署のブースでは、木製ネームプレート制作と木工クラフト体験を行い、両日とも長蛇の行列ができ、スタッフは昼食時間がとれないほどの賑わいを見せました。

木製ネームプレート制作は、サクラやツバキなどを輪切りにしたプレートに彫刻機で名前を彫るもので、木のぬくもりを感じる作品に大人も子供も満足されていました。

子供を対象に行った木工クラフト体験は、木の輪切り、小枝、松ボックリやドングリなど森から集めた幾種類もの材料を使用し思い思いの作品を制作するもので、子供たちの想像力豊かな作品を作り上げる姿と完成した作品の出来映えに親御さん方は大変満足されていました。



林道の横断溝をポンプで清掃

班員は基幹作業職員三名と臨時作業職員一名の計四名で保育作業、収穫調査、境界巡検、林道維持修理、分収育林の明認など多岐にわたる業務を担っています。

恵那林事務所は、東濃森林管理署管轄区域のほぼ中央部に位置し、百名山のひとつに数えられる「恵那山」の南側に所在する国有林名に「恵那」と付く落合恵那・中津恵那・阿木恵那の三国有林と中津川市及び恵那市に所在する五つの官行造林地、合わせて約五、一〇〇鈔を管轄しています。

「東濃森林管理署恵那林事務所」

三浦 勝巳 森林官



恵那山山頂にて（左から3人目が三浦森林官）



恵那班の皆さん

当国有林は、急峻な地域が多く、土壌が柔らかく降雨後等は滑り易いため、冬山事業では、雪の中、主に保育間伐等を実行することから、「十分な足場・足元の確認と確保で冬山事業を無災害で乗り切る」をスローガンに安全第一で作業

に取り組んでいます。

夏季は、恵那山の保全管理を強化するため四人の森林保護員（グリーン・サポーター・スタッフ）を雇用して、国有林のパトロールや入り込み者への利用マナーの指導、歩道・看板の整備、普及啓発チラシの配布等を行っています。

また、恵那山南麓の黒井沢登山口の約一〇鈔の民有林は、初心者からマニアまで楽しめる4WD自動車専用のオフロードコースとなっており、年に数回大会が行われています。

最後に恵那山からは、御岳、乗鞍岳、南アルプス等を見渡すことが出来るため、機会があれば、是非登山に来てください。

人のういき

中部森林管理局

十二月一日付

▽林野庁出向（岐阜署大洞森林事務所森林官） 末安 桂

行事・会議等の予定

◎局長等会議

1月17日

林野庁

◎中部森林技術交流発表会

1月30日～1月31日

長野市



バリエーションに富んだゲレンデを有する
野沢温泉スキー場

「北信署」野沢温泉村は、長野県の北部に位置し、広大なスキー場と豊富な湯量を誇る温泉は、長野県を代表する観光地のひとつです。

野沢温泉村に關係する国有林は巢鷹山・二ツ橋・北ノ入・水尾山・毛無・芋畑・池の沢国有林の七国有林、一、四九二鈔あります。

特に野沢温泉スキー場は、毛無山山頂か

地域と密着した国有林

ふう けい き こう
風景紀行
野沢温泉
92
北信署
(各署の景勝地等を紹介)

七月上旬から八月下旬はスタカ湖キャンプ場が営業されます。高原の静けさとスタカ湖の

グリーンシーズンには、豊かな自然と親しめる場として利用されており、郷土の森に指定されているブナ林の芽吹きや黄葉、ユキツバキ、サンカヨウ、ヤナギランなどの花々などが高原を彩ります。

今シーズンは、十二月一日から天然雪一〇〇%でオープンしており、雪の状況にもよりますが、毎年ゴールデンウィークまで滑走可能です。また、今年には野沢温泉にスキーが伝来して一〇一年目になります。新たな一〇〇年へ向けてスタートしています。

ら山麓にかけ

てゲレンデが広がっており、一部に巢鷹山国有林を利用しています。ゲレンデの標高差は一、〇八五メートル、総面積は約二九七ヘクタールにも及び、良質な雪とバリエーションに富んだゲレンデで、初心者から上級者の方まで充分に楽しめることができます。



スタカ湖キャンプ場



道祖神祭り (社殿)

野沢組惣代と北信森林管理署で「道祖神祭りの森」を池の沢国有林に設定し、道祖神祭りの御神木用材を、将来にわたり持続的な供給と育成を図る目的で整備協定を締結

平成十五年には、祭事の総元締めである

湖畔が抜群のロケーションで人気です。また、野沢温泉村では、毎年一月十五日に全国的に有名な祭事「野沢温泉村道祖神祭り」があります。

野沢温泉村道祖神祭りは、五穀豊穡、家内安全、無病息災、良縁安産を願う野沢温泉村の伝統行事で、三〇〇年以上の歴史があります。ブナの大木で造る豪壮な社殿や、その社殿にたいまつで火を点けようとする村民とそれを守ろうとする厄年の男たちの激しい攻防戦が見物で、日本を代表する道祖神行事の一つとして、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

火点けの攻防戦は激しく、火の粉が飛び散り、怒号も飛び交い、見ていて怖いぐらいです。また、高さ二〇メートルを超すブナの御神木で造られた社殿に火が入り崩れ落ちる様子も見どころです。



道祖神祭りの森 (つる切・除伐実施後)

平成二十六年度末には北陸新幹線が延伸され、飯山駅も作られブナ材も使用されることが決まっています。交通アクセスも向上し、今後、益々多くの観光客の来訪が期待されます。

◆所在地 (野沢温泉街)

長野県下高井郡野沢温泉村豊郷

◆アクセス

〔公共交通機関〕

◎JR飯山線戸狩野沢温泉駅から湯の花バスで約二十分

◎JR長野駅より野沢温泉行き急行バスで約一時間二十分

〔自家用車〕

◎上信越道豊田飯山インターから国道一七号線経由、野沢温泉まで約三十分

◎関越道塩沢石打インターから国道三五三号線及び一七号線経由、野沢温泉まで約一時間二十分